

## 環境審議会「循環型社会構築部会」報告

## 1 開催日時等

## (1) 開催日時

令和 7 年 7 月 28 日(月) 16:00~17:30

## (2) 開催場所

TKP エルガーラホール 中ホール 1

## (3) 議題

- 1 ごみ減量施策の実施状況等について
- 2 「循環のまち・ふくおか推進プラン 第2期実行計画」の原案について

## (4) 出席者(出席者 8 名)

小出 秀雄	委員 (部会長)	阿部 真之助	委員
中山 裕文	委員	大森 一馬	委員
久留 百合子	委員	平 由以子	委員
森 あやこ	委員	田中 綾子	委員

## 2 議事

## (1) 事務局からの説明概要

「循環のまち・ふくおか推進プラン」に基づき、ごみ処理量の推移やごみの組成割合のほか、令和 6 年度におけるごみの減量施策の実施状況等について説明した。また、「循環のまち・ふくおか推進プラン」改定版の原案について、数値目標や取組指標の見直し内容に加え、第 2 期実行計画に盛り込む具体的な施策について説明した。

## (2) 主な意見と考え方等

議題 1 ごみ減量施策の実施状況について	
意見	意見に対する事務局の考え方等
過剰包装を避ける意識は浸透してきているが、通販で購入する場合は、消費者では過剰包装を防げないのが現状である。このような状況を改善するには、事業者側との対話や取組みが必要である。	身近な小売店については、簡易包装を推進していくとともに、広く利用されている大手通販事業者などに対しては、過剰包装の削減について国から要請を行うよう、要望していく。
消費者側がごみ減量の意識を示していくことで、企業側も簡易包装の工夫を進めるきっかけになると思う。	引き続き、ごみ減量意識の啓発に努めていく。

議題2 「循環のまち・ふくおか推進プラン 第2期実行計画」の原案について

意見	意見に対する事務局の考え方等
<p>分別したプラスチックが、最終的にどのように処理されるのか、市民にしっかりと説明していただきたい。単に分別を促すだけでは取組みが進まないため、市民に分別の意義や、その後の流れを明確に伝えていくことが重要である。</p>	<p>プラスチックの分別については、市民の負担となるため、分別の意義をしっかりとご理解いただくことが大事である。さらに、分別したプラスチックがどのようなものにリサイクルされるのか、具体的な事例や効果を示すことで分別する方も増えると思われるため、引き続き分別の意義や成果を分かりやすく伝える広報活動を充実させていきたい。</p>
<p>環境配慮型商品の購入については、十分に進んでいないのが現状である。今後はエシカル消費の啓発や、事業者との連携が一層重要になると考えられるため、市民に対しては、環境配慮型商品の種類や、購入によって環境に与える好影響について、わかりやすく丁寧に周知していくことが求められる。</p>	<p>環境配慮型商品の導入意義について、引き続き市民にしっかりと周知していきたい。</p>
<p>海洋プラスチックごみ対策において、収集運搬業者から情報を収集し、ごみ収集後に散乱ごみが発生している地域を把握した上で、重点的な啓発活動を実施することが重要である。</p>	<p>海洋プラスチックごみの原因となる散乱ごみの発生源等の把握に努め、効果的な取り組みを検討していきたい。</p>
<p>ペットボトルを捨てる際、自治体の指定ごみ袋には費用がかかる一方、スーパー等に持ち込めば袋代が不要であるため、費用負担がなく利便性が高いと考える市民も多い。この結果、店舗による回収が進むことで、自治体によるペットボトルの資源ごみ収集量が減少する可能性があるが、これは回収ルートの変化によるものであり、リサイクル率そのものが低下したわけではない。数値上のリサイクル率が低下しているように見えることがないよう、定義や集計方法の整理が求められる。</p>	<p>ペットボトルの回収については、民間での店頭回収量の把握に努め、より正確なリサイクル率となるよう、取り組んでいきたい。</p>